

第 16 回 日本がん・生殖医療学会学術集会

胚培養士 長期保管セッション

奈良、2026. 2. 20-21

当院の凍結検体の保存期間更新システムについて

中野達也

医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

生殖補助医療において、胚・精子・卵子などの凍結検体は、治療継続や将来の妊娠希望に備えて長期間保存される。一方、保存契約期間の管理や更新手続きは医療安全の観点から極めて重要であり、管理体制の不備は更新漏れや誤廃棄などのリスクにつながる。そのため、患者情報や凍結検体情報、保管期限を適切に管理することは、質の高い医療提供の基盤となる。当院では、凍結検体の更新・廃棄手続きを電子化した院内システムを構築した。本システムでは、患者情報、凍結検体情報、保管期限を一元管理し、月単位で更新対象者のリストを作成できる機能を備えている。さらに、患者への保管期限通知にはショートメールを用い、受信したメールから更新希望の有無を回答できる仕組みを導入した。また、ショートメール内のリンクから Web 上でクレジットカード決済が可能であり、来院を要せずに更新手続きを完結できるなど、利便性の向上にも寄与している。安全性の面では、更新漏れや誤廃棄を防止するため、管理担当者による二重確認体制を整備し、更新履歴や処理内容をすべて電子的に記録・保管している。これにより、監査時の情報確認やトレーサビリティ確保が容易となった。システム導入後は、患者からの電話問い合わせが減少し、培養業務および管理業務の負担軽減にもつながっている。本発表では、当院における凍結検体更新システムの構築経緯、運用方法、導入効果について具体的に報告する。